

令和3年度

越谷市公共下水道事業経営戦略

モニタリング結果

目次

○投資計画についてのモニタリング

- ◆各計画の進捗状況及び実施状況について
- ◆経営指標について

○財政計画についてのモニタリング

- ◆収益的収支について
- ◆資本的収支について
- ◆繰入金について
- ◆経営指標について

○総括

投資目標

将来にわたり安定的に下水道の機能を維持するため、老朽化した施設の改築・更新を計画的に進める。また、老朽化によるリスクだけでなく、自然災害によるリスクについても地震対策、浸水対策として計画的に実施する。

○投資計画についてのモニタリング

◆各計画の進捗状況について

- ・ストックマネジメント計画に基づく事業実施状況

【管渠】進捗状況（令和3年度末時点）

計画期間：H31～R5

処理区・ 排水区の名称	種類	対象施設	布設 年度	対象延長 及び枚数		実施延長 及び枚数		進捗率
越谷第5処理分区	汚水	マンホール蓋交換	-	103枚	157枚	37枚	37枚	23.6%
越谷第6処理分区	汚水	マンホール蓋交換	-	54枚		0枚		
越谷第6処理分区	汚水	管渠	1988	152.43m		143.13m		93.9%
綾瀬川排水区	雨水	管渠 (出羽堀第2号雨水幹線)	1970	-		-		-

◆ストックマネジメント計画に基づく事業として

- ・マンホール蓋については、令和3年度は37枚交換を実施しました。
- ・管渠については、令和3年度は143.13mの管更生を実施しました。

【ポンプ場】進捗状況（令和3年度末時点）

計画期間：H31～R5

処理区・ 排水区の名称	種類	対象施設	設置 年度	施設能力	実施設計	施行年度
東越谷第一ポンプ場	汚水	仕上	1988	23 m ³ /min	平成31年度	令和3年度 ～ 令和4年度
		自家発電設備				
		制御電源及び 計装用電源設備				
		負荷設備				
鷺高ポンプ場	汚水	仕上	1988	45 m ³ /min	平成31年度	令和5年度 ～ 令和6年度 (予定)
		自家発電設備				
		監視制御設備				
		脱臭設備				
越谷第一ポンプ場	雨水	スクリーンかす設備	1980	319.6 m ³ /min	-	-
御料堀ポンプ場	雨水	雨水沈砂設備	1987	600 m ³ /min	-	-
出羽堀ポンプ場	雨水	汎用ミニUPS	1991	492 m ³ /min	-	-
新川ポンプ場	雨水	自家発電設備	1991	179.4 m ³ /min	-	-
塚田ポンプ場	雨水	制御電源及び 計装用電源設備	2000	108 m ³ /min	平成31年度	令和3年度
東越谷雨水ポンプ場	雨水	制御電源及び 計装用電源設備	2005	83.2 m ³ /min	-	-
東町ポンプ場	雨水	制御電源及び 計装用電源設備	2008	187.8 m ³ /min	-	-

◆ストックマネジメント計画に基づく事業として

- ・汚水ポンプ場については、令和3年度は東越谷第一ポンプ場電気設備改築工事（令和3～4年度の2か年工事）を行いました。
- ・雨水ポンプ場については、塚田ポンプ場直流電源盤改修工事を行いました。

・総合地震対策計画に基づく事業実施状況

【管渠】進捗状況（令和3年度末時点） 計画期間：H30～R4

処理区・ 排水区の名称	種類	事業内容	布設 年度	対象延長等	実施延長 及び枚数	進捗率
越谷第7-1処理分区	汚水	管更生	1989	95.58 m	95.58 m	100.0%
越谷第7-1処理分区	汚水	可とう継手設置	1989	2箇所	2箇所	100.0%
-	汚水	マンホール 浮上防止	-	320基	151基	47.2%

◆総合地震対策計画に基づく事業として

・管路施設については、既に第二期の対象箇所を実施済みのため、令和3年度の施工実績はありません。

・マンホールについては、令和3年度は55基に浮上防止対策を行いました。

【ポンプ場】進捗状況（令和3年度末時点） 計画期間：H30～R4

処理区・ 排水区の名称	種類	事業内容	設置 年度	施設能力	耐震診断	補強設計	耐震化工事
東越谷第二ポンプ場	汚水	耐震診断、耐震補強設計	1978	5.00 m ³ /min	平成31年度	-	
千間台第二ポンプ場	汚水	耐震診断、耐震補強設計	1972	2.00 m ³ /min	平成31年度	-	
鷺高ポンプ場	汚水	耐震診断、耐震補強設計	1991	45.00 m ³ /min	平成31年度	令和2年度	令和3年度
東越谷第一ポンプ場	汚水	耐震診断、耐震補強設計	1991	34.50 m ³ /min	平成31年度	令和2年度	
間久里ポンプ場	汚水	耐震診断、耐震補強設計	1994	24.96 m ³ /min	平成31年度	-	
出羽掘ポンプ場	雨水	耐震診断、耐震補強設計	1993	425.00 m ³ /min	平成31年度	令和3年度	
越谷第二ポンプ場	汚水	耐震診断	1991	12.20 m ³ /min	平成31年度		
千間台第一ポンプ場 (雨水)	雨水	耐震診断	1997	144.00 m ³ /min	平成31年度 令和3年度		
恩間ポンプ場	汚水	耐震診断	1999	7.98 m ³ /min	令和3年度		
新川ポンプ場	都下	耐震診断	1991	180.00 m ³ /min	令和4年度 (予定)		
上間久里ポンプ場	雨水	耐震診断	1998	114.00 m ³ /min	令和3年度		
左敷田ポンプ場	雨水	耐震診断	1994	28.00 m ³ /min	令和3年度		
東越谷第三ポンプ場	汚水	耐震診断	1993	3.00 m ³ /min	令和4年度 (予定)		
大沢ポンプ場	汚水	耐震診断	1991	2.34 m ³ /min	令和4年度 (予定)		

◆総合地震対策計画に基づく事業として

- ・汚水ポンプ場については、令和3年度は恩間ポンプ場の耐震診断、鷲高ポンプ場の耐震補強工事を行いました。
- ・雨水ポンプ場については、左敷田ポンプ場の耐震診断、千間台第一ポンプ場の耐震診断、上間久里ポンプ場の耐震診断、出羽堀ポンプ場の耐震補強実施設計を行いました。

・その他実施事業（浸水対策事業）について

◆その他実施事業として（浸水対策事業）

- ・雨水幹線の整備については、令和3年度は新方川第17号雨水幹線の支線を120.5m整備しました。
- ・新方川流域の浸水対策については、千間台駅周辺の浸水対策のための貯留施設の設置について検討を行いました。
- ・元荒川流域の浸水対策については、東越谷雨水ポンプ場の増強工事（令和3～4年度の2か年工事）を行いました。また、左敷田ポンプ場の増強に向け、基本設計を行いました。

財政目標

公営企業の運営は独立採算が原則であること、また、汚水私費、雨水公費が原則であることを踏まえ、財源の確保に努める。

○財政計画についてのモニタリング

◆収益的収支について

単位：千円

		2021年度 推計値	2021年度 決算値	策定時見込 との差額
収益的 収支	収益的収入	6,701,045	6,412,839	△ 288,206
	1. 営業収益	4,695,415	4,359,668	△ 335,747
	うち料金収入	3,642,440	3,379,176	△ 263,264
	2. 営業外収益	2,005,630	2,053,171	47,540
	うち長期前受金戻入	1,822,693	1,834,391	11,698
	収益的支出	6,013,428	5,838,814	△ 174,614
	1. 営業費用	5,426,372	5,331,483	△ 94,889
	うち減価償却費	3,268,626	3,273,207	4,582
	2. 営業外費用	587,056	507,331	△ 79,725
	うち支払利息	442,252	422,769	△ 19,483
経常損益	687,617	574,024	△ 113,592	

収益的収支の概要について

料金収入について、令和3年度に下水道使用料の改定を行いました。推計値では新料金体系を令和3年度当初から反映しているものに対し、決算値（実績）では令和3年11月から反映となっていることから下回ることとなりました。支出については、人件費や支払利息などが推計値を下回ることで総額が推計値を下回りました。

◆資本的収支について

単位：千円

		2021年度 決算値	策定時見込 との差額
資本的 収支	資本的収入	2,432,613	△ 596,966
	うち 企業債	1,230,200	△ 647,900
	資本的支出	4,328,467	△ 791,366
	うち 建設改良費	818,419	△ 759,263
	うち 企業債償還金	3,496,650	△ 45,500
資本的収入額が資本的支出額に不足する額		1,895,854	△ 194,400

資本的収支の概要について

収入について、企業債が推計値より減少していますが、事業費の修正や、事業の見直しに伴い、適正に借入れを行ったものとなっております。

支出について、企業債償還金の割合が大きくなっていますが、償還は順調に進んでおり、減少傾向にあります。

◆繰入金について

単位：千円

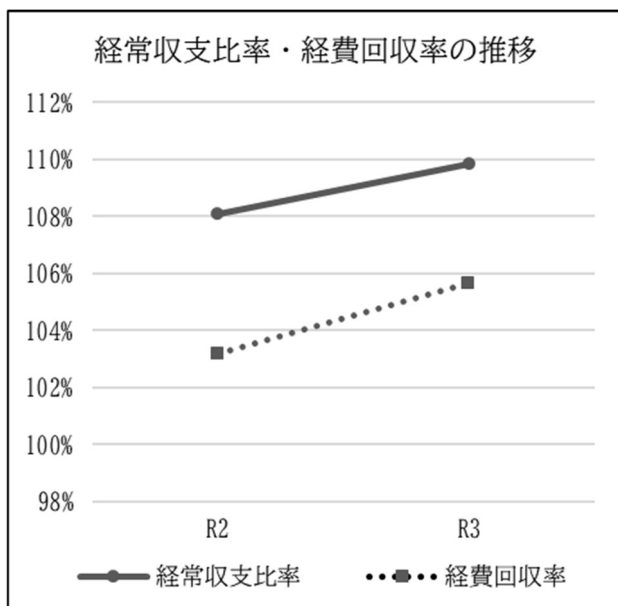
		2021年度 推計値	2021年度 決算値	策定時見込 との差額
収益的 収支分		1,229,299	1,137,308	△ 91,991
	うち 基準内繰入金	1,218,299	1,126,295	△ 92,004
	うち 基準外繰入金	11,000	11,013	13
資本的 収支分		825,035	972,692	147,657
	うち 基準内繰入金	819,035	933,857	114,822
	うち 基準外繰入金	6,000	38,835	32,835
合計		2,054,334	2,110,000	55,666

繰入金の概要について

推計値に対して総額で55,666千円の増加となっております。うち基準外繰入金については32,848千円の増となっておりますが、要因として、推計値における収入（使用料収入）は料金改定を令和3年度当初から反映したものになっていることに対し、実際には令和3年11月からの反映となっており、収入の不足分を補てんする必要があったことが挙げられます。

◆経営指標について

	R2	R3
経常収支比率	108.1%	109.8%
経費回収率	103.2%	105.7%



経営指標の概要について

料金改定に伴う使用料収入の増加や、企業債利息の減少により経常収支比率は前年度比 1.7 ポイント増の 109.8%、経費回収率については前年度比 2.5 ポイント増の 105.7%となっております。

○総括

財政計画については、経常収支比率や経費回収率といった経営の健全性を示す指標において、ともに 100%を超えていることに加え、数値は上昇しており、健全な事業運営ができていると考えます。一方で今後、本市における人口減少が進んでいく中で、持続的で健全な事業運営を行うため、引き続き経営分析に取り組むとともに、分析結果に応じた適切な施策が必要と考えます。

投資計画については、ストックマネジメント計画や、総合地震計画に基づく施設の改築・修繕を計画的に実行できていると考えます。今後は下水道の大規模整備時に布設した管渠などが法定耐用年数を迎えることで、管渠老朽化率が高くなることから、引き続き、調査、計画に基づき施設の改築・修繕を適切に実施することによる費用の平準化が必要と考えます。

今後についても適切な経営分析を行い、健全な事業運営に取り組んで参ります。